

げんき 力エル

こども病院
ニュースレター



平成 26 年(2014) 10 月 1 日

中国からの研修を受け入れて

産科看護師長 檜田 隆子

8月より、金嵐(Jin Lan)看護師、張菁(Zhang Jing)助産師が周産期センターでの2ヶ月間の研修のため来日されました。二人の勤務先は上海にある「インターナショナル・ピース・マタニティ・アンド・チャイルドヘルス病院で、300床の産科と50床のNICUがあり、月に約1500件の分娩を取り扱っているそうです。当院よりもはるかに規模の大きい病院ですが、27週未満のベビー受け入れはされておらず、妊産婦婦に関して、当院の方がハイリスクであるということです。



二人は中国語と英語、少しの日本語がわかります。一方私たちは、英語の堪能なスタッフが数名しかおらず、私を含めて多くのスタッフは日本語と拙い英語、中国語は全くわからず、コミュニケーションがとれるかどうか、とても不安な気持ちで二人を受け入れました。しかし、現在、我が産科病棟は国際色豊かになり、片言日本語・英語が飛び交い、困ったときは漢字の筆談、身振り手振りでコミュニケーションバッチリ?です。そして、二人は

看護実践のみならず、新人・スタッフへの教育計画や看護における実践モデル・OJTについて等、とても熱心で意欲的に学んでおられます。受け入れ側の私たちの方が、逆に刺激を受け、人に伝えることの難しさ、楽しさを教えてもらいました。

一ヶ月が経過し、二人に日本の感想を伺うと、「日本の人は、みんな優しい」「患者さんとのコミュニケーションに割く時間が多い、患者さんに優しく接している」「英語がわからなくても、理解しようとしてくれる。親切にいろいろなことを教えてくれる」と話してくれました。

この後、さらに4名の研修を受け入れる予定です。今後とも彼女たちが効果的で有意義な研修を受けられるように、スタッフ皆で協力して良い環境を提供していこうと考えています。





こんにちは言語聴覚士です

言語聴覚士 住友 亜佐子

言語聴覚士 (Speech-Language-Hearing Therapist) をご存知ですか？通称 ST といひ、ことばや聞こえ、食べたり飲み込んだりといった機能に何らかの障害を抱えている方へ、知識・専門性を活かした評価・訓練を行うのが私たちの仕事です。

こども病院では4名(非常勤含む)のSTが耳鼻科に在籍しています。業務は外来耳鼻科での聴力検査や補聴器装着についての相談、形成外科外

来での術後の言語訓練等を実施しています。従来、外来中心に業務を行ってきたのですが、H24年秋ごろから入院の方に対しても摂食嚥下訓練、言語訓練等を実施するなど、業務の枠を広げています。また、外来・入院とも月1回のカンファレンスを実施し、医師・看護師はじめ多職種と連携しながら患者様に質の高いサービスが提供できるよう心掛けています。



阪本医師と外来耳鼻科カンファレンス中



ICUでのカンファレンス風景



外来耳鼻科にて
池から大津医師、ST住友、ST今村、ST仲宗根、ST小松

業務内容・特徴

外 来	耳鼻科	聴力検査、補聴器外来、聴覚支援学校との連携 ことばの発達評価、訓練施設紹介
	形成外科	口唇口蓋手術後の言語評価・訓練、園や学校との連携、訓練施設紹介
入 院	各診療科 ↓(依頼)	哺乳・摂食・嚥下 評価訓練、食事内容やスプーンの選定、姿勢等の助言
	耳鼻科	失語・高次脳機能 早期からの評価・訓練の実施、地域での訓練施設紹介 言語・認知 遊びを通して言語認知面の発達促進、保護者への助言 *その他必要に応じて、原則入院中のみ。

●上表を参考に、何か気になることがあれば主治医を通して ST までお声がけください。



新生児科紹介

新生児科 芳本 誠司

当周産期医療センターは1994年10月に開設以来ちょうど20年目になります。新生児科はお母さんのおなかの赤ちゃんが無事出生し、家族の一員として家庭で健やかに過ごすことができるようお手伝いする役割であると考えています。新生児科医のみならず、関連各科、看護師をはじめとする多くの医療スタッフがご両親とともにすすめていくチーム医療ではじめてなりたつ領域です。

新生児病棟(写真1)ではまず集中治療室(NICU写真2)に収容して管理を始め、病態の安定化とともにGCU病棟(写真3)で退院の準備をすすめます。退院後は基本的に地元医療機関に予防接種や体調管理を含む育児支援をお願いして、児が家庭、地域の中で育っていくことができるようにサポートしています。

当センターは総合周産期母子医療センターの指定を受けており、年間約800例のハイリスク新生児の管理をおこなっています。院内出生のみならず、産科施設で出生した病的新生児を24時間態勢で搬送をおこなえるように新生児搬送用ドクターカーを配備しています(写真4)。3代目救急車を発注済みで年内にデビューする予定です。人

工呼吸器、血液ガス分析装置、一酸化窒素吸入装置など最新の医療機器を搭載し搬送中から十分な管理が可能できるようになります。

新生児科における診療の3本柱としては

- 1) 在胎28週未満の超早産児(年間約30例)や、体重1000g未満の超低出生体重児(約40例)のような非常に未熟、低体重の児の後遗症なき生存をめざす。
- 2) 心疾患や外科疾患、脳外科、泌尿器科疾患等のあらゆる疾患への対応が可能であり、関連各科と協力して病的新生児の管理を遂行する。
- 3) 染色体異常や重篤な複合疾患をもつ児のターミナルケアを含む総合的な管理を遂行する。あげられます。

これらの医療の実践のために常に最新の知識、技術の習得に努め、日本の新生児医療において想定される最新の管理法(例:低体温療法、一酸化窒素吸入療法、ECMO、血液浄化療法等)はすべて施行可能な状況を維持しています。さらに、周産期医療の改善、改良をめざした臨床研究、神戸大学をはじめとする研究施設での基礎的研究との連携、次代の周産期医療を担う若手スタッフの育成にも力を入れています。



写真 1



写真 3



写真 2



写真 4



栄養管理課になりました

栄養管理課長 徳田 慶造

平成26年4月1日、栄養管理部栄養管理課が誕生しました。

これは、兵庫県の平成26年度県立病院事業組織改正によるもので栄養管理部の設置と栄養指導課の栄養管理課への改編が実施されました。

改正理由は、診療部門との更なる連携強化を回ると共に栄養管理部門として責任体制を強化し、意思決定の迅速化等を回っていくため、副院長のもと、栄養管理を担う独立した部門として設置されました。

メンバーは私、栄養管理課長と栄養士、調理員、非常勤嘱託員等総数26名で毎日、約300食の治療食と約120食のおやつ、それに700本近いミルクを提供しています。

患者様の栄養状態を的確に評価・判定し、病

気の治療、改善の促進を回るため適切な食事の提供を行っています。

また、管理栄養士により毎週水曜日から金曜日の各午前中に栄養指導・相談を実施しています（予約制）。突発的な栄養指導にも可能な限り対応しておりますので、どうぞご利用ください。



Concept コンセプト

●**基本理念** 高度期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の提供
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

雨の多かった暑い夏も終わり、このげんきカエルがお手元に届く頃は過ぎしやすい季節になっているのでしょうか。

げんきカエルではこれからもこども病院のさまざまな情報を発信していきたいと思っています。みなさまからのご意見、ご感想をお待ちしています。

編集委員長：橋本ひとみ

編集委員：田中亮二 中村法子
内海花子 井手敦子
藤原真貴 赤松純子
山根輪也 北川由香

本部に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院

高度期医療センター 小児救急医療センター
小児がん医療センター 小児心臓センター

F:654-0061 神戸市須磨区須磨台1丁目1-1
TEL:578-732-6661
FAX:578-732-0910 (総機室)
FAX:578-732-6660 (予約センター)
URL:<http://www.hyogo-kidno-hosp.com/>
E-mail: info_kch@hp.pref.hyogo.jp